

生産振興・販売力強化の成果

重点市場・重点量販店との連携強化

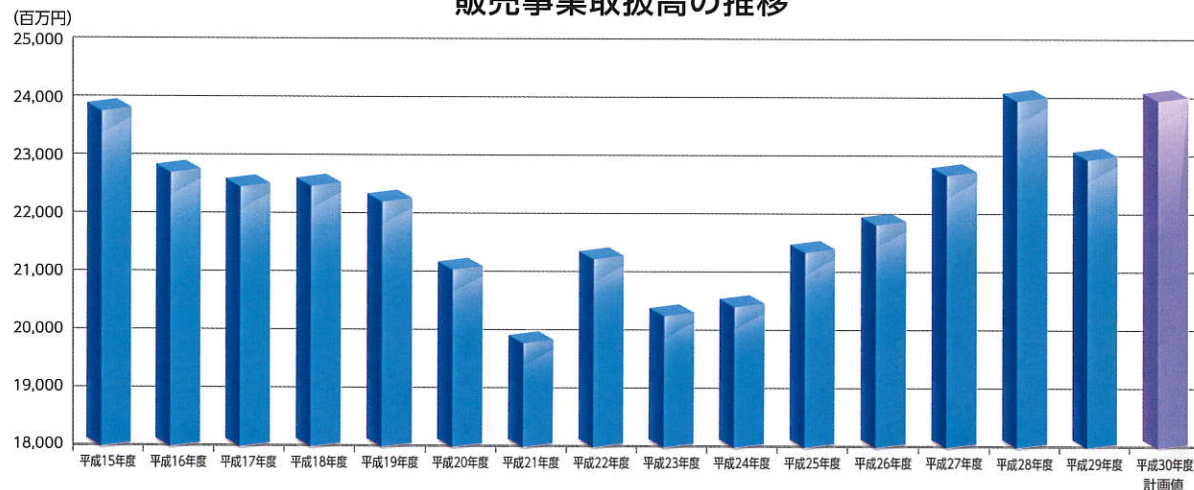
3～6ページの生産振興策とともに、販売力の強化により農家組合員の農業所得の向上に取り組んでいます。

とびあの農畜産物のうち市場流通は8割を超えており、重点市場との連携強化は最重要事項です。

産地と市場との情報共有を図る販売対策会

議や、量販店バイヤーを招いての産地見学会を行うほか、ポスターや広告などの販促資材の制作・配布、パッケージデザインの刷新などを行ってブランド化を進めるとともに、出荷最盛期には量販店で集中的に消費宣伝会を開催するなど、販売強化に努めています。

販売事業取扱高の推移



※平成30年度は、販売事業取扱高の計画値を表示

加工・業務向け買取販売

キャベツ生産がとびあ全域へ拡大

キャベツは湖西地区を中心に生産されていましたが、農協への出荷はほとんどなく、個人販売や出荷組合を組織して販売していました。

そこで、平成18年度から、販売価格の安定と生産拡大のため、加工・業務向けの買取販売を生産者に提案し、取引を開始しました。



新たな販売パートナーの開拓

生産振興に結び付く販売企画と契約販売

生産者から「選別や出荷調整に手間がかかるため、栽培面積や経営規模の拡大が難しい」「市場出荷の規格では今の面積を維持するのが精いっぱい」という声がありました。

そこで、芽キャベツ、砂糖エンドウ、パセリ、オクラなどについて、選別の手間を減らした規格や、今まで規格外だったものを加工用として販売するといった提案を行いました。

その提案に賛同してくれるスーパー、量販店、外食産業などの実需者を開拓し、産地であるとびあと、一緒になって新たな商品を生み出す取り組みを始めています。



丸亀製麺
(糸みつば)



セブンイレブン
(新たまねぎ)



6次産業化による加工品の開発

9商品が「はままつプレミアム」に認定

高品質で安全・安心なとびあ産農畜産物を原料とした商品開発、販売を進めてきました。

また、平成26年に浜松商工会議所へ入会したのをきっかけに、6次産業化を推進する「浜松産の食材でヒット商品を作ろう！プロジェクト」に参加しています。

これまで、ジャム、ハンバーグ、スイーツなど、9商品が「はままつプレミアム」に認定されています。

他にもコロケやウインナー等も大好評です。



農業が育てる地域の未来

1. 総合事業で豊かなくらしを応援

Supporting a prosperous lifestyle in comprehensive projects



とびあは「総合事業」を行っています。農業生産を支える営農事業、農畜産物を販売する販売事業、貯金やローンなどの信用事業、生命と財産を守る共済事業、そして、不動産・葬祭・旅行の取扱いや、女性部活動の支援を中心とした生活事業です。これらは組合員や、地域にお住いのみなさまの、豊かなくらしを応援するための事業です。

2. 地域農業を発展させるための投資

Investment to develop regional agriculture



組合員のみなさまが事業を利用することで得た利益の一部は、地域農業の発展のために使わせていただいています。前ページまでにご紹介した各種の取り組みがその例です。つまり、みなさまに農協の事業をご利用いただくことは、地域農業の発展につながり、そして、食と農を通して、みなさまの生活を豊かにすることに還元されていきます。まさに農業協同組合の本懐です。

水稲や野菜の苗の供給

育苗センター

農作物の栽培で播種から育苗までの管理はとてもしねを使い、手間のかかる作業です。

管内3か所に育苗センターを設置し、農家組合員の効率化や省力化に貢献するため、水稲苗や専業農家向けの野菜苗の安定供給に努めています。



土壌の健康診断と安全・安心な農作物の提供

土壌農業分析センター



健康な農作物を栽培するためには、「土づくり」が欠かせません。土壌農業分析センターでは、土壌に含まれる農作物の生育に必要な養分の分析を行って、養分の過不足を診断し、適正な施肥を提案することにより、経費の節減、さらには高品質な農作物の生産と収穫量のアップにつながるよう取り組んでいます。

また、安全・安心な農作物を消費者に提供するため、農薬の使用状況を検証しています。

資材価格の引き下げと割引奨励制度

農業所得向上に取り組む購買事業

農家組合員の農業所得の向上に貢献するため、生産資材のコスト削減に取り組んでいます。

仕入機能の強化による資材価格の引き下げと、肥料や農薬の購入時に年間の購入金額に応じた割引を行っています。

また、価格の引き下げだけでなく、土壌診断を活用した施肥提案や病害虫の防除提案、栽培にかかわる技術的な相談に努めています。



経営支援農家の農業所得30%アップの取り組み

農家と農協が二人三脚で目指す目標達成

「農業を魅力ある職業にしなければ、後継者も新規就農者も育たない」という役員の強い想いから生まれた経営支援農家の農業所得30%アップの取り組み。

平成30年度は30人の営農アドバイザー（技術指導）が各々5軒の経営支援農家を設定し、生産指導や経営支援を集中的に行います。

農家組合員と営農アドバイザーが目標を共有し、「栽培提案書」に基づいて二人三脚で目標達成を目指します。



無料職業紹介事業

農業の労働力不足を解消



昨今、農業の労働力不足が大きな問題となっていますが、とびあでは平成19年度から「無料職業紹介事業」を立ち上げ、農家からの求人に対する求職者の斡旋を行っています。

求職者に対する説明会や作業体験を行うだけでなく、農作物別の作業内容を紹介する映像やパンフレットを作成したほか、農家に対する労務管理勉強会を開催するなど、労働力の確保を推進しています。

農地の集積や貸借に関する事業

経営規模拡大をバックアップ

農地中間管理機構（静岡県農業振興公社）の業務を受託し、浜北地区、雄踏地区、細江地区の水田を農地中間管理事業として貸借しました。

また、浜松市南部地区ではタマネギ産地の振興を目指して、担い手農業者の経営規模拡大と効率化を図るため、農地利用集積円滑化事業として畑を貸借（転貸）しました。



— 農業協同組合が生み出す豊かな循環 —

The future of the area where agriculture fosters

4. 食べて応援、地域の農業



Eating and cheering, local agriculture

みなさまが、地域で作られた農畜産物を食べてくれることを、一番喜んでいるのは地域の農家です。次はもっとおいしくて安全・安心な農畜産物を作ろうという気持ちになります。とびあ産農畜産物を選ぶことは、地域の農業を応援することになり、結果、みなさまの豊かな食生活や健康につながっていくという素晴らしい循環を生み出します。

3. おいしくて安全・安心な農畜産物の提供

Provide tasty, safe and secure agricultural and livestock products



浜松市は全国7位（平成28年）の農業産出額を誇る農業地帯です。とびあで生産された農畜産物は、首都圏などの大都市へ出荷されるだけでなく、ファーマーズマーケットなどを通して、地域のみなさまの食卓に届けられます。つまり、地域農業が発展することは、みなさまの食卓に、採れたて、新鮮、安全・安心な農畜産物をお届けすることにつながります。

ファーマーズマーケット

おいしい農畜産物を食卓へ

ファーマーズマーケットは准組合員や地域にお住いのみなさまに、とびあの農畜産物を知って、味わっていただく最大の窓口として、管内に4店舗を展開しています。

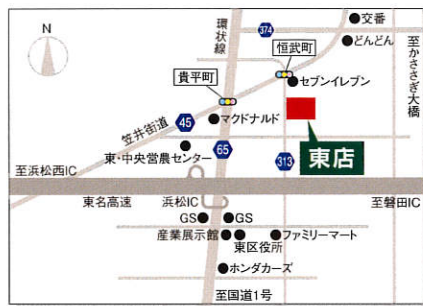
旬の野菜や花、採れたて、新鮮・安全・安心な農畜産物を、地域に発信するアンテナショップとして、平成29年度には160万人を超える方にご来店いただきました。

また、それぞれの地域の基幹作物の収穫体

験など、地域の子供たちを対象とした農業体験イベントを開催しているほか、遠州病院の管理栄養士を招いた健康相談など、食と農の大切さを伝えるイベントも行っています。

一方、ファーマーズマーケットは、新規就農者や定年帰農者が農畜産物の販売を始める登竜門的な存在として、農業者の育成や農業振興の一翼も担っています。

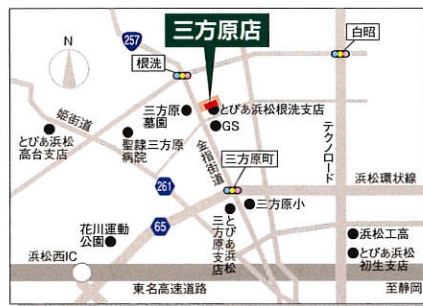
ファーマーズマーケット 東店
浜松市東区貴平町655-1
☎053-433-0300 営業時間 9:00~18:00



ファーマーズマーケット 白脇店
浜松市南区寺脇町209
☎053-444-6600 営業時間 9:00~18:00



ファーマーズマーケット 三方原店
浜松市北区根洗町1213-2
☎053-414-2770 営業時間 9:00~18:00
11~2月は17:00まで



ファーマーズマーケット 浜北店
浜松市浜北区新原6677
☎053-586-5633 営業時間 8:30~16:30



「丁稚奉公」と「匠の技」

産地で培われてきた技術・知識・経験の継承

ベテラン農家が培ってきた卓越した栽培技術を若手農家に継承するため、花きでは「丁稚奉公」、野菜では「匠の技」と銘打った取り組みを行っています。

事例① 輪菊

若手農家3人が師匠（ベテラン農家）に弟子入りし、数カ月間、毎日師匠の元に通って技術を学びました。また、平成29年度からは青年部員へと弟子入りの幅を広げ、さらなる技術の継承に努めています。

事例② パセリ

技術力の高い農家を匠とし、規模拡大を目指す農家や若手農家に匠の動画や写真を使用して指導するほか、圃場の作業環境（温度、湿度など）を数値化して技術の早期伝承を進めています。

事例③ たまねぎ

苗作りから土作り、定植、そして収穫、出荷準備まで、栽培のプロセスを細分化して匠

の技を取り入れました。参加した若手農家はグループ討議で成果や課題を共有し、生産拡大に結び付けました。



金のタマゴプロジェクト

次世代の枝物生産者を発掘

古くから湖北地区は全国有数の枝物産地ですが、産地を維持していくための後継者育成

が課題でした。そこで、将来の担い手として見込まれる枝物農家の後継者を対象に「金のタマゴプロジェクト」を開始しました。

枝物農家の後継者は、現在、サラリーマンとして勤めている方がほとんどですが、平成29年10月に第1回説明会を開いたところ、33人の希望者が集まりました。

その後も現地見学会や農業機械の操作方法の講習会等を開催し、金のタマゴ（将来の就農者）の育成に努めています。



第二次農業振興および担い手支援事業 未来の地域農業への投資

地域農業の振興と農家組合員の農業所得の向上を目的に「第二次農業振興および担い手支援事業（平成29～31年度）」を実施しています。

これはビニールハウスの建設、大型農機の導入など経営拡大する農家へ、年間2億円を上限に行っているとぴあ独自の直接的な支援策です。

平成26年度からの累計は、2,292件、6.5億円。ハウス建設では16haが新しく建設されました。これは、東京ドーム約3個分の面積に相当します。

支援実績 単位：件、千円

	件数	金額	
平成26年度	424	92,580	第一次
平成27年度	661	166,649	
平成28年度	706	194,313	
平成29年度	501	199,978	第二次
合計	2,292	653,520	



※東京ドーム4.7haで計算

経営意向調査と担い手支援訪問活動 農協の総合力で担い手を支援

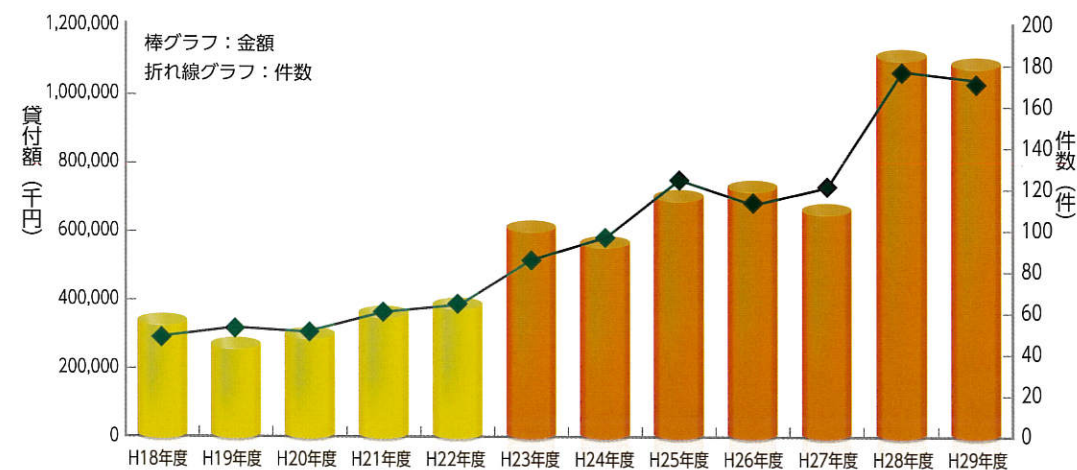
将来の農業経営について、農家個々に抱いている夢や希望を、営農アドバイザーが丹念に聞き取る経営意向調査を行っています。

ニーズのある農家には、営農アドバイザーと支店の融資担当者が同行訪問（担い手支援訪問活動）し、営農アドバイザーが生産面や

経営面で、融資担当者が資金面からサポートして農家の夢や希望の実現を支援しています。

この取り組みを始めた平成23年度を境に、農業資金の新規実行が2倍に増えました。これは、その資金を使って夢や希望を実現した農家が2倍に増えたことを意味しています。

農業資金年度別新規実行の推移



「新規農業者養成塾」と「とぴあ園芸教室」 就農の志をバックアップ



とぴあでは、就農の志を持つ人を支援するため、平成9年度から就農支援事業を始めました。

平成19年度からは、就農を見据えて本格的な農業を学ぶ「新規農業者養成塾」と、栽培の基礎を学んでファーマーズマーケット等への出荷を目指す「とぴあ園芸教室」を開催。平成29年度までに新規農業者養成塾は73人、とぴあ園芸教室には716人が受講しています。

「栽培技術を学べたほか、先輩農家とのつながりができてうれしい。品質の良い物をたくさん出荷したい」「知り合った仲間と一緒に新しいチャレンジをしたい」といった感想が寄せられました。

青壮年部活動

若手農業者の活力で地域農業を元気に

管内205人の若手農業者がとぴあの青壮年部に加入。地域農業の発展、食と農の大切さを広める活動を行っています。

活動の一つとして、耕作放棄地を減らすことを目的に、地元企業と連携し、ホウキ草を育てて地元産ホウキを作製した取り組みは、JA全国青年大会で最優秀賞を受賞しました。

また、管内の小学生親子を対象に、農業体験イベントを開催しています。平成29年度はジャンボ落花生の栽培から収穫・試食・販売までを体験しました。子どもたちから「農業の大変さがわかった。野菜がもっと好きになった」といった感想が寄せられました。



女性部活動

自分磨き・地域貢献で世界が変わる

とぴあには、地域の女性がイキイキと活動している「女性部」という組織があります。7地区に分かれ、20～80歳代の幅広い年齢の女性約4,300人が所属。助けあい活動、朝市、子どもたちへの食育活動、健康料理教室やよさこいなど、自分磨きから地域貢献まで、幅広い活動を行っています。

女性部は、農家に限らず管内にお住いの女性ならどなたでも入会できます。活動を通じた仲間との出会いは大きな財産です。子育て中のお母さんや定年退職された方も大歓迎！

詳しくはとぴあのホームページをご覧ください。



とぴあの協同活動

明るく住みよい地域づくりの一助に

とぴあは、地域みなさまに愛され親しまれる存在であるために、平成23年度から「協同活動」と銘打って地域貢献活動を行っています。



農業体験や食育活動といった、農協ならではの活動を中心に、子どもたちの見守りや、地域の清掃・行事への参加等、それぞれの事業所が自主的に活動を行っています。

平成28年12月には、これらの活動が認められ、浜松市の創設した「企業の社会貢献活動(CSR)表彰」を受けることができました。

とぴあは、地域農業の振興に尽力するのはもちろん、明るく住みよい地域づくりの一助になるよう、これからも一層、頑張っていきます。



役員メッセージ

OFFICER MESSAGE



経営管理委員会会長

鈴木 和俊

KAZUTOSHI SUZUKI

組合員みなさまにおかれましては、日頃よりJAとぴあ浜松の組合運営につきまして、格別なるご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて昨今、組合員みなさまは「自己改革」「農協改革」といった言葉を、よく耳にされるかと思えます。政府主導の「農協改革」は、農協の在り方について変革を求める内容が多分に含まれていますが、JAとぴあ浜松は、あくまでも農協本来の使命を貫き「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を三本柱に、事業運営を進めてまいりました。

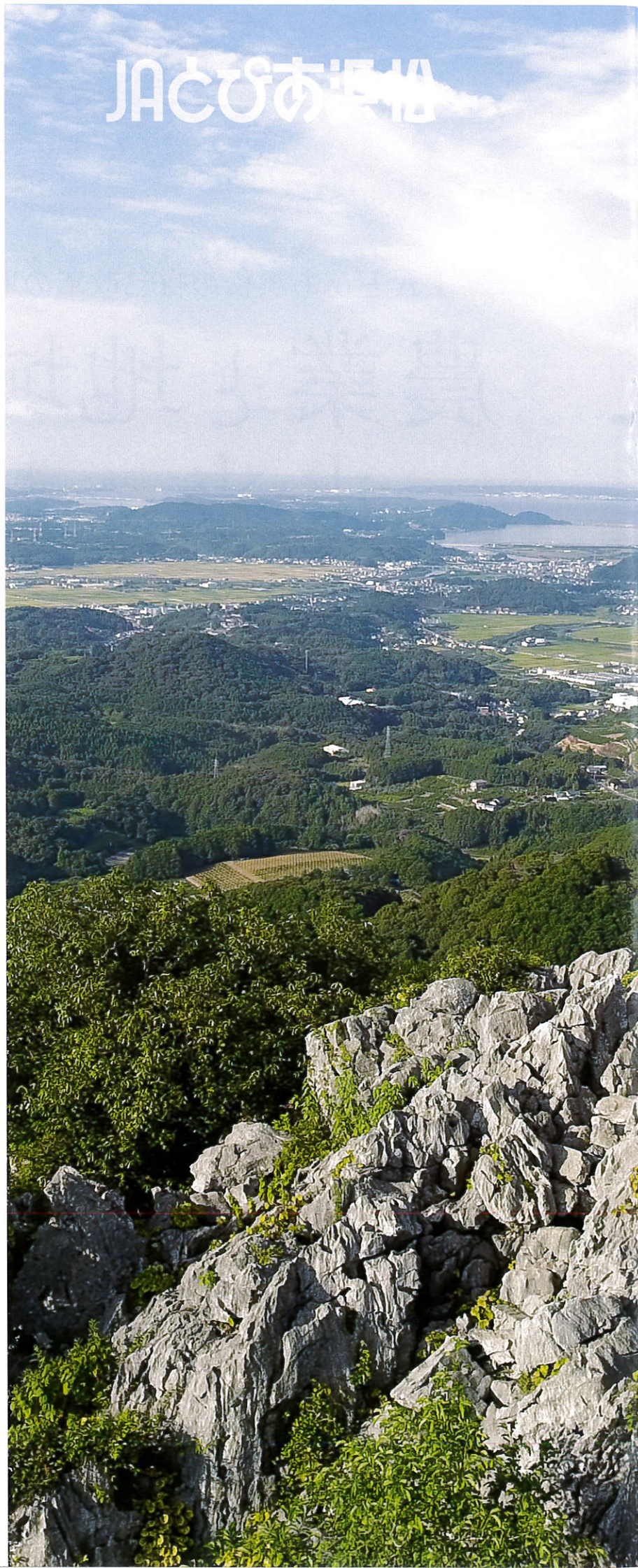
地域農業を担う農業者には、生産、販売両面から独自の施策を多数打ち出し、また、安全・安心で高品質な農畜産物の提供や、金融、共済、生活など各種事業を通して、准組合員や地域社会への貢献にも努めてまいりました。この冊子は、それらの内容や成果をまとめたものです。

JAとぴあ浜松は、地域農業の発展と、豊かでくらしやすい地域社会のために、また、組合員や地域みなさまから必要とされる協同組合であるために、自ら改革し、さらなる実践をしてまいりますので、今後も一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

農業と地域の未来のために

CONTENTS

■ 役員メッセージ	P.2
■ 農業所得の向上・技術継承	P.3,4
■ 農業振興・生産コストの削減	P.5,6
■ 販売力強化	P.7,8
■ 農業が育てる地域の未来 ～農業協同組合が生み出す豊かな循環～	P.9,10
■ ファーマーズマーケット・農を学ぶ	P.11,12
■ くらしの活動	P.13,14



ふれあい農協祭

地域との絆を大切に

地域のみなさまとのふれあいの場として、また、農業協同組合を身近に感じてもらう場として、そして、地域の農業や農畜産物を知っていただく場として、とびあでは、管内5会場で「ふれあい農協祭」を毎年開催しています。

平成29年度は5会場合計で約33,000人の方にご来場いただきました。これからも組合員、そして地域のみなさまとの絆を大切にする、ふれあい農協祭を開催していきます。



食べて応援 准組合員は地域農業の応援団

JAの組合員には、農家である正組合員と、JAの利用者である准組合員の二つがあります。准組合員は貯金やローンなどを利用されている方が多く、ともすると農業や協同組合とは関係が無いと感じている方も多いかもかもしれません。

ところが、全くそんなことはありません。みなさまが、この地域で作られた農畜産物を食べてくれることを、一番喜んでいるのは地域の農家です。次はもっと美味しく新鮮で安全・安心な農畜産物を作ろうという気持ちになります。

代表理事 理事長
森下 安則

YASUNORI MORISHITA



とびあ産農畜産物を選んでいただくことが、地域の農業を応援することになり、結果、みなさまの豊かな食生活や健康につながっていくという、とても素晴らしい循環を生み出します。

准組合員のみなさまにこそ、地域の農業をよく知っていただき、地域農業の最大の応援団になっていただきたいと願っています。



©よい食プロジェクト

— JA とぴあ浜松の自己改革の取り組み —

農業と地域の 未来のために



とぴあ浜松の取組宣言

農業を主軸とした地域協同組合として
農業の発展に全力を尽くします！

- ・私たちは今も、昔も、これからも農業と暮らしのパートナーであり続けます
- ・私たちは世の中の変化を察知し、変化に応じて、暮らしに役立つご提案をします
- ・私たちは組合員・利用者と共に成長することを目指します

JA とぴあ浜松

平成30年5月